

OTC 薬および健康食品等の使用に影響を及ぼす医療制度的要因の解明

医療費の削減および国民の健康増進・予防という観点から、セルフメディケーションを推進していくことが提唱されています。海外では、セルフメディケーションの普及が進んでいます。実際、様々な集団を対象とした OTC 薬や健康食品等に関する使用実態に関する報告がされています。

一方で、日本では、健康食品等の使用に関する報告は多いですが、OTC 薬の使用に関する報告はあまりされていません。また、日本において医療費の自己負担割合とセルフメディケーションの利用との関連が指摘されていますが、現行の医療制度とセルフメディケーションの利用との関連性を検討した報告はありません。これらの関連性を検討することは、現行の保健医療を見直し、今後の国民の需要に沿った制度を構築していくにあたって重要です。本研究では、OTC 薬および健康食品等の使用に影響を及ぼす医療制度的要因を解明するために遡及的調査を行いました。

調査対象は、2014 年 10 月から 2015 年 3 月に岐阜市民病院に入院した 16 歳以上の患者としました。調査項目は年齢、性別、飲酒および喫煙の有無、保険区分、入院時疾患および既往歴、入院時薬歴、OTC 薬および健康食品等の使用の有無としました。OTC 薬の使用の有無を従属変数とし、単変量解析によって $P < 0.25$ であった因子を独立変数に採用し、多変量解析（多重ロジスティック回帰分析）を行いました。

調査対象患者数は 6,033 名であり、除外基準により解析対象患者数は 5,965 名でした。そのうち OTC 薬使用群は 156 名（2.6%）、健康食品等使用群は 501 名（4.0%）でした。

従属変数を「OTC 薬の使用の有無」、独立変数を単変量解析で $P < 0.25$ であった「女性」、「飲酒」および「公費負担・医療助成制度」等の 14 項目として、多変量解析を行いました。解析の結果を図 1 に示します。「女性」[オッズ比 (OR)、4.42]、「飲酒者」[OR、3.075]、「新生物」[OR、1.460]、「筋骨格系および結合組織の疾患」[OR、1.729]、「尿路性器系の疾患」[OR、1.402] で OTC 薬の使用率が有意に高くなりました。「公費負担・医療費助成制度」[OR、0.361]、「眼および付属器の疾患」[OR、0.593] で OTC 薬の使用率が有意に低くなりました。

従属変数を「健康食品等の使用の有無」、独立変数を単変量解析で $P < 0.25$ であった「女性」、「飲酒」および「喫煙」等の 18 項目として、多変量解析を行いました。解析の結果を図 2 に示します。「女性」[OR ; 1.485]、「医療用医薬品使用者」[OR、2.413]、「感染症および寄生虫症」[OR、1.762]、「皮膚および皮下組織の疾患」[OR、1.742]、「損傷、中毒およびその他の外因の影響」[OR、2.409] で健康食品等の使用率が有意に高くなりました。「喫煙者」[OR、0.577]、「後期高齢者医療制度」[OR ; 0.630]、「公費負担・医療費助成制度」[OR、

0.306]、「精神および行動の障害」[OR、0.517] で健康食品等の使用率が有意に低くなりました。

図1 OTC薬の使用の有無に影響を及ぼす因子

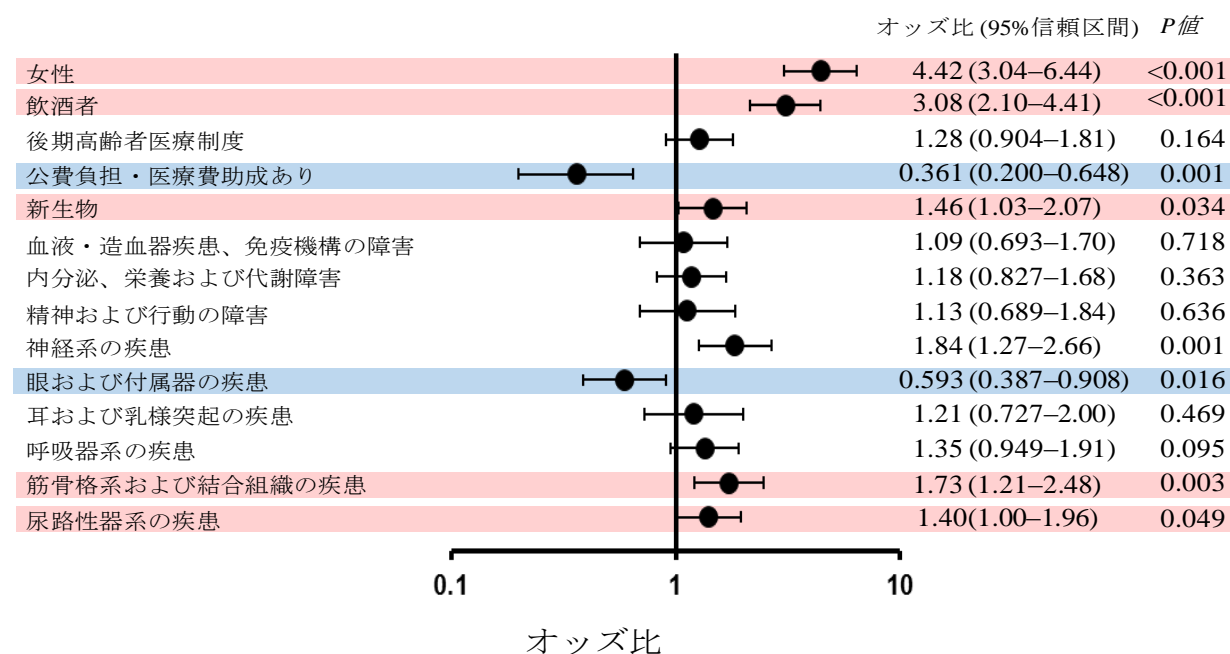
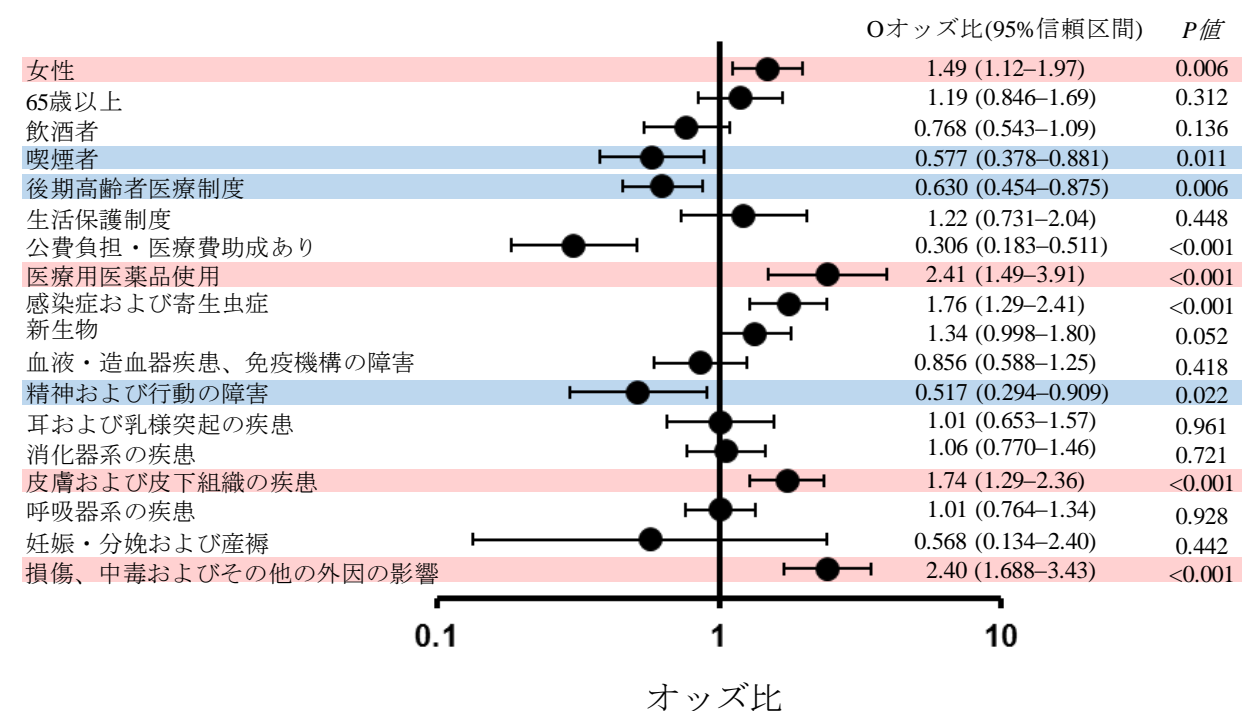


図2 健康食品等の使用の有無に影響を及ぼす因子



本研究では、入院患者における OTC 薬および健康食品等の使用に影響を及ぼす要因を明らかにしました。OTC 薬の使用が高い要因は女性および飲酒者であり、使用が低い要因は公的負担・医療費助成制度利用者でした。また、健康食品等の使用が高い要因は女性および医療用医薬品使用者、使用が低い要因は喫煙者、後期高齢者医療制度利用者、公費負担・医療費助成制度利用でした。特に、後期高齢者医療制度や公費負担・医療費助成制度といった現行の医療制度とセルフメディケーションの利用との関連性を明らかにした点は、今後の日本における需要に沿った保健医療の構築を検討していくにあたって、意義があると考えます。

【発表論文】

Tomoya Tachi, Aki Yoshida, Yuta Kanematsu, Ikuto Sugita, Yoshihiro Noguchi, Tomohiro Osawa, Masahiro Yasuda, Takashi Mizui, Chitoshi Goto, Hitomi Teramachi, Factors influencing the use of over-the-counter drugs and health foods/supplements, *Pharmazie*, 73, 598-604, 2018.